

あなたも
高教組へ

2・3面 ・ 静岡県教育のつどい
4面 ・ 女性教職員学習交流集会

しず
おか

高教組しんぶん

発行所
静岡県高等学校障害児学校教職員組合
〒420-0004 静岡市葵区末広町 1 - 4
http://www.s-koukyouso.jp/
e-Mail info@s-koukyouso.jp
TEL (054) 254-6900 FAX (054) 254-0814
Facebook:「静岡高教組」で検索

第492号
2023年
12月8日

高教組しんぶんは組合費とカンパによって発行しています。
ボーナスカンパ、お願いします。

- 1 給与改定
- 人事委員会勧告及び報告どおり実施

○ 技能労務職員の給与改定も、一般職員と同様

○ 法改正で在宅勤務等手当新設の場合は対応
- 2 学校における働き方改革
- 学校長に、時間外縮減に向けた教育長通知を発出
・完全退庁時刻を、実情を踏まえ、適切に設定管理
・完全下校時刻の設定、部活動指導員の活用、部活動数の適正化

○ 保護者・地域に理解、協力を促す呼び掛け検討
- 3 時間外在校等時間のデータの扱い
- 全体すう勢のデータを勤務条件労使協議会で提示
- 4 メンタルヘルス対策
- サポートルーム相談対象者の重点化、出張カウンセリングの必要性の高い学校へ特化、精神疾患休職者復帰に「リワーク面談」の活用
- 5 勤務時間帯の変更の運用拡大
- 令和6年度から小集団や個別教職員にも運用を拡大

○ 個別教職員適用は本人の了承を得る
- 6 時差勤務の試行
- 令和6年度の夏季休業期間、全校を対象に時差勤務試行
- 7 会計年度任用職員の給与改定
- 会計年度任用職員の改定は令和6年4月実施

○ 令和6年度以降に常勤職員に給与改定があった場合は、改定を検討
- 8 会計年度任用職員の勤勉手当の創設等
- 令和6年6月期から会計年度任用職員に勤勉手当支給

○ 評価期間は前後期に変更、業績評価を追加。
評価A・Bは成績率102.5、Cは102.5未満(改定後)
- 9 勤勉手当の成績率の運用（ポイント差の拡大）
- 令和6年6月期から、特に優秀S、優秀A、良好Bの各区分間のポイント差を6.5に拡大(現行6.0)
- 10 勤勉手当の成績率の運用（新たな運用の開始）
- 令和6年6月期から、評価は高いが上位評価のない職員の成績率に優秀A 107.7と良好B 101.2の中間の率104.45(改定後)を導入

月例給・一時金ともに引上げ
～ 教育長交渉～

11月17日、高教組は第3回教育長交渉を行い、深田委員長以下7名が参加しました。人事委員会勧告後、2回の交渉の合間に教育総務課・高校教育課・特別支援教育課への要請行動を行っていました。今回の最終交渉を受け、県議会で議決された後、今年度の賃金が確定することになります。

勤勉手当の新たな運用は容認できない

県教委回答後のやりとりで、高教組は、勤勉手当の成績率のポイント差拡大は容認できないこと。AとBの中間率を設けるより全員が上位区分を受けられるよう運用すべきこと。再任用職員の処遇を定年引上げ職員に合わせて調整することを主張。

また、メンタル起因の労災が増加しており、長時間過密労働解消とハラメント根絶の方策について教育長に質しました。併せて部活動の生徒全員加入、顧問の強化を

やるよう要求。特支における「10年3校」異動方針の問題点についても指摘しました。

高教組の見解

11月20日、教育長回答に対し高教組は以下の見解を表明しました。

1、給与改定について

人事委員会勧告にもとづいて、初任給及び若年層に重点を置きながら全職員の賃金の改善は私たちの要求と運動の反映である。しかし、物価高騰には対応せず、「公共」の大切さが見直される中、公務への貢献に報い

るにはならず、その重要性和魅力の発信に値するものではない。

在宅勤務手当の新設について、学校では想定できないというが、学校事務職員、特に、障害や病気を抱えながら勤務する場合には、必要である。再任用の給与と定年引上げの給与との整合を望む。そもそも再任用給与は、年金支給を前提とした制度であり、破綻して、同一労働同一賃金の原則に反する。

2、学校における働き方改革について

根本的には定数増、あるいは外部指導員（カウンセラー・生活指導・各種療法師など）の豊富な配置が必要であることは世論となりつつある。

教育長通知の効果には期待するが、退庁時刻の設定・徹底だけでは、やり残し・持ち帰り仕事が増えるだけである。

部活動に関しても、部活動指導員の十分な確保、地域活動の環として位置付ける具体的な計画を示す必要がある。部活動はあくまで、生徒にとつては「自主的な活動」、教師にとつても「自主的・自律的な活動」であることとを踏まえ、教育長通知では、「部活動加入の強制」「部活動顧問の強要」が「あつてはならない」よう、あらためて周知すること求める。

事務職員への業務の移行についても、まず学校司書に従事する時間の確保が最優先のはず。効率化、業務削減だけでなく、業務量に見合った人の配置により、事務職員の多忙化につながらないよう、増員を望む。

3、時間外在校等時間データの共有について

種々の施策効果の検討にはデータは不可欠。結果をもとに労使協議会をおこなうことは、かねてからの要求であった。

4、メンタルヘルス対策について

臨床心理士などの資格を持った専門家によるカウンセリング、面談の体制の充実、安全衛生委員

会の効果的活用、公務災害の認定要件の緩和を求める。

「障害のある職員が長く定着し活躍できる職場」への配慮、「治療と仕事の両立支援」のために特別休暇の新設を求める。

5、勤務時間帯の変更運用拡大

育児・家事、交通事情などによる利用は好評だったとの結果。運用拡大を求める。

6、時差勤務 夏季休業期間に時差勤務試行について

育児・家事、交通事情などによる利用は好評だったとの結果。運用拡大を求める。

7、会計年度任用職員の給与改定について

年度途中で改定しない契約というが、不利益は遡及しないが、利益は遡及するのが原則。国やいくつかの県では実施が決まっている。

8、会計年度任用職員の勤勉手当創設

一時金の創設・増額に關しては受け入れるが、支給要件の撤廃、緩和を求める。

勤勉手当の支給において人事評価結果で差をつけることは容認できない。

9、勤勉手当の成績率の運用

ポイント差拡大は容認できない。あらためて勤勉手当への活用と共に、人事評価結果の昇給等への活用は、廃止を求める。競争原理や自己責任論が入り込みやすく、協働性を破壊する可能性の高いこの制度は、教育現場はもちろん公務の職場にはそぐわない。地公法そのものの改正が必要である。

「他との競争ではなく、個々の教師の意欲・資質の向上のため」「Bが続いたらASになるよう促す」「管理職の育成能力が問われる」等の考え方の周知を求める。

したがって、中間の率の設定に関しては無意味であり、長年の校務への貢献を評価するならば上位評価にすればよい。

年齢を重ねたせいか、肉よりも魚が好きになってきました。勤務校の近くに、魚屋さんがあるんです。寿司屋もネタを仕入れに来るといふ町一番の老舗。仕事帰りに、新鮮な魚を買って、そのまま刺身でいただくのが密かな楽しみ。鯛はブリッブリ、鮭はムニムニで▼美味しい魚を食卓まで届けるには、ゴールド・チーンが必要なんだとか。漁師が魚を獲ったらすぐに氷水で冷やし、市場に運ぶまで、市場で買手がつくまで、そして魚屋に届くまで、ずっと冷やしたままにしておくんです。冷たい水の中で泳ぐ魚にとつて、人間の手で触られることは、火傷するようでも途中で手を抜いたら細胞壁が壊れ、ドリツプが流れ出し、旨みが失われてしまいます▼魚は、カオで買うとも言われています。売り手と買い手が顔を合わせ、信頼のチーンがつながり、それではじめて、いい魚が取引されるのです。美味にはフェイストゥフェイスのコミュニケーションが不可欠なのでしょう▼さて、例の魚屋さん、先日閉店してしまいました。その魚屋さんは九十歳、七十二年間がんばってきて、ついにご勇退。さみしくなります。最後の営業日には、たくさん魚を買い、実家にも持っていき、皆で美味しくいただきました▼AIが脅威的に進歩する現代、多くの仕事が奪われていくと言われています。学校の仕事も大きく変わることでしよう。しかし、フェイストゥフェイスで大切なものをチーンしていくことだけは、代替不可能。その魚屋さんがなくなっても、これだけは心に刻まなくては。

視座

年齢を重ねたせいか、肉よりも魚が好きになってきました。勤務校の近くに、魚屋さんがあるんです。寿司屋もネタを仕入れに来るといふ町一番の老舗。仕事帰りに、新鮮な魚を買って、そのまま刺身でいただくのが密かな楽しみ。鯛はブリッブリ、鮭はムニムニで▼美味しい魚を食卓まで届けるには、ゴールド・チーンが必要なんだとか。漁師が魚を獲ったらすぐに氷水で冷やし、市場に運ぶまで、市場で買手がつくまで、そして魚屋に届くまで、ずっと冷やしたままにしておくんです。冷たい水の中で泳ぐ魚にとつて、人間の手で触られることは、火傷するようでも途中で手を抜いたら細胞壁が壊れ、ドリツプが流れ出し、旨みが失われてしまいます▼魚は、カオで買うとも言われています。売り手と買い手が顔を合わせ、信頼のチーンがつながり、それではじめて、いい魚が取引されるのです。美味にはフェイストゥフェイスのコミュニケーションが不可欠なのでしょう▼さて、例の魚屋さん、先日閉店してしまいました。その魚屋さんは九十歳、七十二年間がんばってきて、ついにご勇退。さみしくなります。最後の営業日には、たくさん魚を買い、実家にも持っていき、皆で美味しくいただきました▼AIが脅威的に進歩する現代、多くの仕事が奪われていくと言われています。学校の仕事も大きく変わることでしよう。しかし、フェイストゥフェイスで大切なものをチーンしていくことだけは、代替不可能。その魚屋さんがなくなっても、これだけは心に刻まなくては。



静岡県教育のつどい

地域民主教育全国学習交流集会 「子ども・学校・地域」を串刺しにとらえる

2023年11月25日(土)静岡県教育のつどい・地域民主教育全国交流集会を男女共同参画センターあざれあで開催、他県からも含め、約1000人の参加がありました。

記念講演

記念講演は、NPO法人「ゆめ・まち・ねっと」代表の渡部達也さん・美樹さん夫妻の「富士市子どもの権利条例策定と居場所づくり」すべての子どもに楽しさを保障するために、そろそろ学校も福祉の視点を持ちませんか」。静岡県教職員互助組合高校支部教育講演会として行いました。

生きづらさを抱えた人たちの居場所

県児童相談所や富士山こどもの国等に勤務後、県庁退職。行政ではできない社会課題の解決を目指し、重障児施設等に勤務した妻の美樹さんと「ゆめ・まち・ねっと」設立。自由な外遊び環境を保障する「冒険遊び場たごっこパーク」や放課後の居場所「おもしろ荘」、自宅を改装し24時間対応する「みんなの家むすびめ」を運営。生きづらさを抱えた子ども・若者が集う居場所づくりはメディアで度々報道されました。

《講演要旨》

茶髪・金髪で登校禁止

初参加でペンキ塗りを始めた子は、調理を仕切って大活躍。聞くと、父は背に龍を入れた塗装職人、家族を捨て出奔。母親は病気がち、妹は発達障害、兄は中卒で一人暮らし。小学生にして家の大黒柱。中学で金髪にしたため登校禁止。一時途絶えたが、再会。子どもが生まれ、母と一緒に来訪。二人の赤ちゃん？母娘同時出産でした。

茶髪・金髪の中学生が出入りしている時、保護者の承諾を求める校長に、「学校は責任をとりたくないのでしょ」と、と切り返すと、「勝手にしてください」。お墨付きをもらったと解釈し、「ありがとうございます」とお礼。黒髪に戻すまで登校禁止のため中学校は不登校、10代で2児をもつ母を生活支援。

つながり続ける心折れかけた君と

22歳の青年は、小学生の頃から「ばい菌」扱いされていじめられ、中学校の部活動では、一人だけ設定タイムを切れず、連帯責任で全員周。部員に責められ、つらくて自殺も考えた。

宿題が20ページ分たまったからグラウンド20週の罰も。悩みを親にも打ち明けられない中、「冒険遊び場たごっこパーク」は、心が休まり、居心地の良心のオアシスだったと語る。社会人になった今も、渡部夫妻が心の友と通い続ける。

と胸ぐらをつかまれた。自殺も考えていたが、渡部夫妻に、「行かなくていい、しんどい思いしていくところではない」と味方してくれてうれしくて、生きようって気になったと語る。今は、小さな子たちの遊び相手になっている。

特別な教育的支援が必要なのに

発達障害があるのだが普通学級に入学。「僕はホームレスになるのかな」とつぶやくので、なぜと問うと、「先生から、係の仕事もできないような子は将来ホームレスになると言われた」と。

特別支援学級に移籍するが、相変わらずの「一律」の指導。将来の夢を語らねばならない場の重圧から解放されるために欠席するが、別の日に機会を作られ、完全に不登校に。母親は心中を考えた。放課後等デイサービスでは楽しく過ごしている子なのに、「困っている」と付き添い登校を求められ、思わず聞き返した。困っているのは子どものはず。校長に会いに行き、障害者差別解消法に反しているの、合理的配慮の遵守を要求。

までに出してくださいって」と妻が嬉しそうに戻ってきた。注意した青年は、中学は不登校でうつ症状と非行傾向を抱えていた。今はこみ回収に従事。

私たちも「ASD」「ADHD」「LD」と仮の診断をするが、レッテル貼りではなく、無理解な関りをする

特別な教育的支援が必要な生徒は、男12・1%、女5.4%。しかし、87・6%が個別の指導計画が作成されていない。

歯止めになれるか

毎回、欠かさず「冒険遊び場たごっこパーク」に参加する青年は、成人してから発達障害の診断。偏見と無理解に苦しみ、他者を殺傷すること

も頭をよぎったとテレビ取材に答える。受け止め、認めてくれ、ここにいるんだと思える場所に出会い、社会とのつながりも感じている。今は、写真を趣味とし、アサギマダラなどを撮影し、披露している。

学校に福祉の視点を

児童相談所が把握する虐待件数急増、22万件。虐待死の7割は孤立家庭。虐待死のうち0歳時死亡が半数、0日が17・1%、望まない妊娠によるもの。学校にも市役所にも相談に行けない、公的機関以外に相談できる場所が必要。

子どもの貧困、7人に1人で高止まり。しかし、58・6%が就学援助を受けていない。申請主義なので、制度があっても利用しにくい。

ヤングケアラーも増加。

小・中・高校生で4〜6%、調査未回収を含めるともつと多い。学校に行きたくてもいけない、進路変更考えざるを得ない。

行政は貧困対策として

進学率向上を上げるが、学習環境の整わない家庭から定時制や通信制に進学できても、退学する率が全日制よりはるかに高い。卒業に至っても進路が未定。そこに目を向け、支援する必要がある。

いじめ件数も右肩上がり。学校が重大事態と認識していないことが多い。

静岡県で教員のわいせつ行為など不祥事が相次ぐ中、県教育長は「先生と児童生徒との間には上下関係が生じる」と指摘し、「教職員の職務の特殊性の認識が大切」と訴える。「指導死」を招きかねない教員の不適切指導は由々しき問題。

富士市

子どもの権利条例

今の学校のあり方に批判的な言動もしてきたが、富士市は僕を条例の策定委員に任じてくれた。教育と福祉の乖離を指摘し、教育委員会の参画を求めた。条例を必要とする子どもの声を聴いてほしいと要望し、行政

事務局は、「たごっこパーク」や「おもしろ荘」に足を運び、生きづらさを抱えた子ども・若者やその保護者の声を条例に反映。

居場所の必要性を訴え、条例にも居場所づくり

に力を入れる姿勢を打ち出してもらった。市長は議会でも、居場所とは単に空間ではなく、人間関係を構築できる人がいることの大切さを説く。

学校には

母性性が必要『過保護のススメ』『抱きしめようわが子のぜんぶ』などの著者、佐々木正美さんは、「母性性で子どもを包む」ことが大事だと言う。「子どもが言うことを聞かない」と相談にくるが、それは親として恥ずかしいこと。子どもの言うことを聴いてあげていれば、大好きなお母さんの言うことを

参加者からの感想

「学校の教師もものと言えなくなっている。ゆとりが必要。教師も温められないと」

「自分だけよい教育、よいクラスを作ってもダメ、ここに刺さる指摘でした」「学校の教師でいるだけでなく、地域でも教師として生きたいと思いました」などの声が寄せられました。

「特別扱いはできない」と一律一斉を求めがちですが、ほんらい学校教育とは、ひとりひとりの「特別」を大切にして受け容れ、生徒同士だけでなく教師も共に育つ「共育」の場。再確認するよい機会となりました。



B 学習分科会

B 学習分科会では、両日とも20名ほどの参加者で「人間の生き方に直結する学習」に焦点を当てて話し合いをしました。

4本の報告がありました。

①第五福竜丸の元乗組員であつた大石又七さんを取り上げた中学校道徳の実践（静岡）

②性に関する学習・授業づくりを小学校現場と大学教育実践から再考するもの（大阪）

③自然の中で子どもの中から沸き起こる学習要求を実践につなげる「とさ自由学校」での試み（高知）

④ひとり親家庭や生活困窮者世帯の子どもに学習機会を生み出す大学生「静岡学習支援ネットワーク・SSS」の取り組み（静岡）

それぞれが目の前の子ども・若者の実像を見据え、その子ども・若者がどう生きようとし（生存要求）、何を学ぼうとしているか（学習要求）と自問自答しながら実践してきたものばかりで、それは「生きることと学ぶことを結びつける試み」とも言えます。

県内の実践について触れます。①の道徳は、地域の研究家に膨大な資料を借りて授業者が学びを深めたうえで、



「語り継ぎ部」を育てよう」と取り組んだ勇氣あるトライアルでした。また④では、実際

の事例も報告されました。男性に対する恐怖心があつたが支援を通して話すことのできる大学生が増えた例、コミュニケーションが不得手だったが少しずついろいろな人と話せるようになり、高校生になった今も教室に通う例、「どうせ自分なんて」という無力感から高校進学をあきらめつつあつたが支援を通して学習の楽しさに気付き、無事に高校に進学した例などです。

「ナナメの人間関係」を強みに二人一人に寄り添った学習支援をする大学生も、彼らへのケアを通して「貧困」と（榛原高校 塚本 徹）

D 地域分科会

子ども・青年の生きづらさはどこからくるのか。



昨年度の小中学校の不登校は29万9千人と発表された。子どもの数が減少する中、この10年間で中学校は2倍に、小学校では3.6倍となる異常な増加である。今、これまでの学校のあり方そのものが問われている。

子どもたちの育ちにふさわしい地域、大人が生き生きと生活する地域をつくるにはどうしたら良いか、それぞれの地域で活動する4つの報告がなされた。

①「就労支援団体の高校内カフェ」生きづらさを地域移行で支える」（静岡）

②「部活動の地域移行を考える」（静岡）

③「『北海道子どもセーター』から見える子ども若者保護者」（北海道）

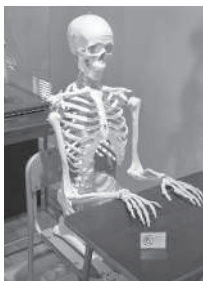
子どもたちの育ちにふさわしい地域、大人が生き生きと生活する地域をつくるにはどうしたら良いか、それぞれの地域で活動する4つの報告がなされた。

参加者を迎え、活発な意見交換がなされた。キーワードは、「困りごとを真ん中に、誰もが地域で安心して暮らし続けることができる相互扶助の社会」「身の回りの生きづらさ、居づらさを皆で主体的に変えていくこと」「上からの改変ではなく、子どもの声を聴き、子どもや保護者、教師を主人公にした主体的な取り組み」等。これまでの教育制度の限界に、改めて危機感を覚えると同時に、渡部達也さんの基調講演と相まって、「子ども・学校・地域」を串刺しにとらえ



A 子ども分科会

オブシヨナルツアー



富士の「夢・まち・ネット」の見学と静岡の「ふじのくに地球環境史ミュージアム」との2コースに分かれました。

静岡市大谷にあるミュージアムは、元静岡南高校の校舎をそのまま利用し、地球生成と自然と人の歴史、静岡県の自然による恵みと脅威、駿河湾の多種多様な水生生物、生物の食物連鎖、縄文時代から現代に至る歴史、県内各地から産出する岩石や鉱石、多様な生物の標本、脊椎動物の骨教室には白骨の生徒も、化石や石器などが所せましと展示されています。

特別展示では、稲米・田キノコ類、蝶・蛾がテーマ。学芸員の方が、ほんとに好きなんだな、と思わせてくれる解説をしてくれました。地球家族会議にも参加。テーマは水資源。生活に使える淡水はごくわずか。風呂の水などの節約方法を考えさせられました。



あまりに面白くて、3時間以上、見入って聞き入ってしまった。

12月3日(日)焼津文化会館で、劇団燐光群による演劇「わが友、第五福竜丸」(作演出 坂手洋二)が上演されました。米国による水爆実験でマグロ漁船「第五福竜丸」が被爆したビキニ水爆被災から来年で70年を迎えることで企画されたものです。



当日は志太榛原地区の高校4校の演劇部20名の高校生たちと顧問がチラシの折り込みや来場者案内など劇団の手伝いをしながら参加しました。開場前から列を作って待っていてくれた多くの観客を迎えた後、幕があくと、3・1ビキニデー集会で故大石又七さん・池田正穂さんが立った焼津文化会館大ホールのステージが、第五福竜丸展示館の大きなスペースとして立ち現れました。

焼津文化会館大ホール ホワイエにて
演出家・坂手洋二さん、第五福竜丸展示館学芸員・安田和也さん、NHK ディレクター・奥秋聡さんと各校の演劇部の生徒たち

演劇「わが友、第五福竜丸」、高校生たちも参加

が、ちゃんと動かすことができるように作られていたというエピソードから物語は始まります。

しかしその後、突然、展示館から第五福竜丸の姿が消えてしまいます。

場面は次々と移り変わります。俊鶴丸による海の放射能汚染の実態調査、海でも薄まらず高密度帯が移動、食物連鎖でマグロの体内に蓄積。マーシャル諸島の汚染土などをコンクリートのドームに閉じ込めて「安全宣言」しても老朽化して漏出。高知の漁船も被爆して家族も病や出産に苦しむが無保障。福島の原発事故、「処理水」海洋排出。原子力の平和利用？、抑止力論……。

来春の全国高校生平和集会焼津ではこの日集まった多くの生徒たちが中心となって、全国で平和活動に取り組む高校生たちを迎えます。その意味においても今回は大きな学びの機会となりました。

放射能はどこに行った？その警告を発するために、第五福竜丸は今も航海中、もう一人の自分と出会うために……。

これが仲間だよな。 やっぱり組合っていいな♡

第 32 回全国女性教職員学習交流集会



10月28・29日に歴史と文化のまち京都で第32回全国女性教職員学習交流集会が開催され、全国各地から300名の教職員が集いました。

初日のレセプションは、1970年、1995年、2023年の3つの時代の職員室の様子を、京教組女性部の皆さんが、時代の流行歌とともに劇仕立てで熱演されました。時代ともに変わっていく職員室の空気感がとてもリアルでその時代の教育ニーズと多忙な教員の姿、その中でいつの時代も明るく仕事に励み同僚に寄り添う組合員の姿が印象的でした。「これが仲間だよな。やっぱり組合っていいな♡」と



記念講演は、毎日放送ドキュメンタリー担当ディレクターで映画『教育と愛

国』の監督である斉加尚代さんの「新たな戦前を迎えないために子どもたちに平和な未来を手渡したい」でした。

話を聞き、政治がこんなにも教育に介入しているのだと危機感を覚え、今の教育は「愛国」という言葉で戦争を良しとしてしまふ戦前の日本の教育に近づいて

くして「国を愛する」ことはできないでしょう。そのためには私たち教師は実際の歴史を知り、子どもたちにその歴史を伝え、民主主義や人権

教育をしっかりと行っているのではないかと思います。2日目は、7つの学習会の中から「宇治の街を歩



た宇治の歴史を宇治橋や茶屋、宇治上神社を巡り学びながら、山本宣治(山宣)の実家である花やしき浮船園を尋ねました。山宣は、カナダ留学時に徹底した男女同権教育を受け、1924年に出版された『恋愛革命』の中で「…両性は質の違いであり量の差ではない、即ち男に優劣はない。唯双方

互なくては立行かぬ…」と当時の結婚や出産について批判し、生物学に基づいた産児制限を提唱しました。また、1928年には京都2区から労働党公認で立候補し当選。治安維持法に絶対反対を貫き暗殺されました。あの時代に男女平等を唱え、信念をもつて政治権力に立ち

向っていった山宣の生き方に感銘を受けました。見学の道すがら、神社には七五三で晴れ着を着た家族が多数参拝に訪れていました。とても微笑ましい光景で、こんな幸せがウクライナやガザでは戦争で奪われていることに胸が痛くなりました。

主張

2023年11月7日(火)13:30～15:30静岡市民文化会館大会議場で、厚生労働省主催の「過労死等防止対策推進シンポジウム」が行われました。企業の管理職や県教育委員会の担当者も受講していました。オープニングは「僕の夢」が紹介され、涙腺がゆるみました。

精神障害等の公務災害の急増

まず、静岡労働局労働基準部から挨拶と報告。長時間労働は、運輸郵便、宿泊・飲食サービス、教育・学習支援の分野での割合が高い。年次有給休暇取得率目標は70%なのに、58.3%。メンタル



ヘルス対策も80%目標に遠く届かない。死亡・過労死も含む労災・公務災害の申請、認定件数、精神障害は増加、特に教育・学習支援業で急増。睡眠時間が十分とれず、ストレスがたまり、うつ病のリスクが高まっているとともに、ハラスメントによるものが目立つ。

けがはだれにでも起きうるが、病気は人によってなるかならないか違うので、早い気づきが必要。ストレスチェックの受検率を高め、集団分析を実施し、気づきと職場改善につなげる必要がある、と警告。

続いて、静岡社会健康医学大学院大学准教授指導を開始し、2014年、過労死等防止推進法可決したが、翌15年、高橋まつりさん過労自殺事件、月105時間の残業によるものと労災認定。パワハラ防止法、ハラスメント防止法も成立したが、精神障害等による労災補償支給増加、2022年全国で710

視の職場・労働環境の改善が必要。2次予防としての有病率を減らすためには、身体不調への早めの気づき、受診、治療が大事。同僚・上司の気づきがない場合が多い。1つの事故のもとには、軽微な事故が30件、ヒヤリハットする事案

「ぼくの夢」ある過労死遺児の詩の曲
作詩：マー君 作曲：山本友英 歌：ダ・カーポ
大きくなったら ぼくは 博士になりたい
そしてドラえもんに出てくるような
タイムマシンを作る
ぼくは タイムマシンに乗って
お父さんの死んでしまう 前の日に行く
そして 仕事に 行ったらあかんで 言うんや

過労自殺で亡くした尾崎正典氏がお話し。本人任せだった、入院治療を強く勧めた、重大さの認識不足、と後悔。働くということは金稼ぎではなく家族とともに幸せに暮らすこと、安全、異常、働きすぎを早期発見し、

改善するシステムを雇用側とともに作るのが急務。保身のために報告しないのは許されることではない。私しか気づいていないかもしれないと気づいたら、行動を」と呼びかけました。

しごとより、いのち

天笠崇氏の講演

1972年「労働安全衛生法」成立以来、労働災害は減少傾向にあったが、1995年の「新時代の日本の経営」でリストラ、成果主義、非正規化が進み、98年からは「自殺者3万人時代」、労災認定件数も増加。ストレスチェック、面接

件 静岡県では申請65件、認定17件。
個人の問題ではなく
職場の問題
1次予防として発生率・罹患率を減らすためには、根本的には長時間労働の解消、増員と共に、競争的関係やハラスメントを生みやすい非民主的、人権軽

が300件潜んでいる。個人の責任にしてしまふのではなく、「炭鉱のカナリア」として、不調になる人の事例を教訓として大切にする必要がある。ミスやトラブル、愚痴や不満、能率の低下など、いつもと違う変化に早い気づきが必要。

管理職には

「安全配慮義務」

管理職や任命権者(県教委)には「安全配慮義務」がある。サポート、ヒヤリング、受診勧奨(業務命令も可)、療養中のフォローやセーブなど、長い目で見守り、働きながらも安心して休養できる環境づくりが求められる。早めの気づきによる

対処は、早期の休職で短期の回復、職場環境改善、能率の向上にもつながる。本人の理解のもとでの、病气や障害の理解を広め、当事者参加型の環境改善が求められる。最後に、姉を

